

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 干共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546 FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志



福岡中部教会 (九州教区、福岡県福岡市)

メッセージ

マタイによる福音書28章16～20節

疑う者たちに注がれているイエスの



古屋治雄

世の終わりまでいつも

私たちは、すでにイースターを祝い、復活の主の力強い導きの下に、四月からの新年度の歩みを始めています。そして私たちは復活された主が、四十日間弟子たちと共にいられた後、天に昇られ、約束してくださった聖霊が注がれるペンテコステを迎えようとしています。

わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

マタイによる福音書末部にあるこの御言葉は、主イエスが復活された直後に、弟子たちに向かって語られた言葉です。しかしこの主イエスの呼びかけは、復活直後に限定されず、むしろ今日に至るまで、どんな時代の中にあっても、主を信じる群れに呼びかけられている御言葉です。

この御言葉が語られた、復活の主と弟子たちの出会いの場面をみると、ルカによる福音書などが伝えている出会いの出来事と違っています。ルカでは、最初のうちは不安ながらもやがて

彼らの中に重い闇となつて

その後使徒として力強い働きを担ったであろう、と想像することができません。しかし、この御言葉で終わっています。そしてここで見過ごしにできないのが、この場面で弟子たちの中に「疑う者」がいたことです。ヨハネ福音書に登場するトマスのような特定の一人ではなく、細かくみると、複数の弟子たちがそうだったということです。

聖書の復活の出来事に接する人は誰でも、荒唐無稽だとおもわれる。しかし、復活の主の約束と派遣の言葉で終わっています。そしてここで見過ごしにできないのが、この場面で弟子たちの中に「疑う者」がいたことです。ヨハネ福音書に登場するトマスのような特定の一人ではなく、細かくみると、複数の弟子たちがそうだったということです。

赦しと、新しく生きる力を

私たちが主の復活の知らせを伝え聞き、その主を信じ、初めの弟子たちから始まった教会の歴史を担いながら礼拝をささげている。しかし復活の主の前に招かれたあの弟子たちが、礼拝をしながら疑いを秘めていたように、私たちにも、時に主に對する「疑い」がわき上がってきます。

私たちは、新しい二〇〇八年度を歩み始め、それぞれの教会でも新たな指針を掲げ、希望をもって進みたいと願っています。その私たちの中には、主に對する力強い信頼だけがあるので

らと思われま

ここでの復活の主イエスの最後の呼びかけは弟子たちへの派遣命令と言われま

で、主の宣言とも言える言葉をばっちり聞いたので、同じように宣言しておられる言葉が最後にも語られています。

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」
そして、この二つの宣言の言葉に、主イエスの派遣の言葉が、包まれているのです。

弟子たちは、この主イエスの二つの宣言の言葉をどう受けとめたのでしょうか。
私は確信します。「主は自分たちの犯した罪を赦してくださった」と弟子たちが分かった。「近寄って来て」、言われました。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている」すでに弟子たちは「イエスに会い、ひれ伏し」て出会っているのですが、ここ

決して離さない方であることを私たちは人々に告げるのです。

私たちは、新しく主に招かれた人を洗礼へと導き、そのことのために祈るよう

に勧められています。教会の働きは実際多岐に亘っていますが、どの働きも、洗礼へと導いてくださる主が

先んじて働いてくださっているのです。

三つ目に、教えることが命じられています。教えるといっても古い律法を守るのではなく、あなたがたの教師はキリスト一人だけである(23章10節)こ

の主イエスから私たちが弟子として教えを受け、その

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること

です。弟子として終わってしまつたあの十一弟子は復

活の主によって新たに弟子二使徒とされました。

主は、もともと弟子になれる者ではなかった者こそ、弟子にしてください

は、主イエスが伝道を開始された地であり、ここから弟子たちを呼び出さ

れました。「異邦人のガリラヤ」とも呼ばれ、「死の陰

の地」とも言われているところへと私たちは出て行く

ように、復活の主から命じられています。

「すべての民をわたしの弟子にする」ということは、孤立している人に、あなた

を主が弟子に呼んでくださっています、と伝えること



荒野
だ珍しいアスパラの種を蒔いた。十年二十年頑張るぞという覚悟を表す儀式だったのかも知れない。時々のほだいたい数年目。最初の挫折を体験した頃だ。▼以前の任地で創立百周年の準備に当たっている時に、古い古い教会日誌を見つけた。「今年一年の覚悟で、一念を込めて」。元旦の真に、必ずこう記されていた。信徒数、財政規模から見て、毎年その覚悟が要ったのだらう。▼先日宣教方策会議、奥羽教区議長は、長期的展望をもって伝道・教会形成に当たる事の出来ない諸教会の現実を訴えた。▼アスパラを植えるくらの時間と気持ちの余裕が欲しいものだ。庭の季節になりアスパラも出た。種蒔きよりも、雑草取りで忙しい。放っておくと...

お知らせ
「教団新報」今号四六四九・五〇号を合併号とし、四六五一号は五月二日に発行致します。
本号は、特別号として発行、各教区総会にお届けします。乞う購読。
総幹事 内藤留幸

宣教方策会議に肯定的評価、なお課題も

教会
宣委員

第四回宣教委員会が三月十一日(火)～十二日(水)水道橋の韓国YMCAの会議室にて行われた。三月十日(月)～十一日(火)と富士見町教会で開催された宣教方策会議に引き続いての日程である。

よる開会礼拝に続いて諸報告がなされた。

協議では、先ず宣教方策会議の評価について話し合われた。自由に話されたそれぞれの意見を纏めてみることで報告に代える。

「今回は『伝道の協力』が主題として取り上げられ



宣教方策会議の大事を終え、ホッとする間もなく新たな課題に取り組む

たが、共に一つの課題に取り組めたとと思う。『互助のことも取り上げられたためか、これまで言われてきた『伝道は覇権主義だ』という意見は出てこなかった。』

「だからといって、不満がないわけではないと思う。」「分団では伝道のビジョンを話し合うまでには行かなかった。そこに行くまでの時間が欲しかった。」「山口講演は教団という教会の宣教(伝道)方策の基礎的な理論を提供しているので、

質疑をも合わせて報告書を作りたい。」「次回は委員は交代するが、伝道方策が話題となるような方策会議にして欲しい。」「山北宣久議長より「機構検討特設委員会の答申」についての検討依頼があり、協議した。常議員会で責任を持って審議すべきで、我々は云々する立場にはないが、意見が求められているので意見を述べることにした。次回委員会で文書に纏める。

第1回教育セミナー開催される

自主活動団体の宣教委員会陪席について。自主活動三団体はそれぞれ性格が違いうので、全国教会婦人会連合は毎回とし、日本キリスト教保育所同盟は社会委員会と、全国教会幼稚園連絡会は教育委員会との連携を強くしていただき、宣教委員会への陪席は各々の総会後年一回とする。

「障害者差別問題小委員会の名称変更に関する件。」「差別問題」だけでなくあらゆる切り口で事柄に関わるために、新たに『障がい』

を考える小委員会を提案することとなった。

伝道一五〇年記念事業について、二〇〇九年六月二四日と十一月二二・二三日に行事が考えられている。宣教委員会として協力する。(小出望報)

りも主催した私にとっても大きな励ましとなった。

三月三日夕刻、南国教会を会場として行われたセミナーは、同時開催の教区教育担当者会の参加者を含めて六〇名が集まった。遠く伊予からも車を走らせてくださった。講師の平田和子氏(吐田郷教会キリスト教教育主事・教団教育委員)はキリスト教教育主事として働いた経験と、現在の教会の状況を踏まえ、まことに的確に、また情熱的に、教会教育の喜びを語り、参加者は大いに励まされた。

教団の教育委員会が、少しでも各地で励まれる方々と共に思いを合わせることが出来ればと願い、このとき



平田講師、情熱的に教会教育の喜びを語る

教区教育担当者会、高知で開催

教団教育委員会主催の教区教育担当者会が、三月三日(四日、四国教区高知分区の南国教会及び香美教会を会場にして開かれた。

この会は二年ごとに開催されてきたが、今回は神奈川県、京都、沖縄以外の十四教区から各担当者が参加、計二三名が参加した。

牧師の子女と教会員の娘二名に二〇名であった礼拝出席者数が次第に減少し、十五年目には教会学校生徒が

その経験を通しようやく牧師としての意識の問い直

と教会学校の目的の再認識を迫られることになった。教会学校は事業ではない。減少する子どもの数が問題なのではなく、一人でも子どもが教会に来ているという喜びの欠如が問題なのだ。

その後も教会学校生徒の減少とは何を意味するのか。それは我々の意識の

ら現況を聞き、情報交換の時をもったが、教区ごとに報告する内容が統一されておらず、教育委員会から各担当者への通知を徹底してほしいとの要望が出された。

会終了後、希望者と共に芸西伝道所と教団関係学校清和学園を訪ね、散会した。(眞壁蔵報)

《台湾基督教長老教会の青年と日本基督教団の青年との交流会》

◎テーマ／「主にあって共に歩む」(在基督奉手同行)

◎日時／2008年7月31日～8月8日

◎場所／主な場所は、東京の韓国Y・神戸の六甲Y

◎応募条件／

1. 募集人数7名(7名を超える場合は教団教育委員会に選考させていただきます。)
2. 18歳以上で教会の礼拝に出席している青年(求道者でも可。)
3. 所属教会の牧師の推薦状のある方
4. 全日程参加できる方

◎参加費／1万円(交通費、全額補助)

◎募集締め切り日／2008年5月10日

申し込み希望者は日本基督教団教育委員会まで、封書で牧師の推薦状を添えて申し込んでください。

◎宛先／〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2丁目3-18

◎連絡先／TEL03-3332010544 (教育委員会)

Mail Address nomura-se@uccj.org また kusafuka@uccj.org

は

たことは感謝であった。ほとんとは教会学校教師であったが、講演に「励まされたいとの声を多数いただいた。一方、」教区担当者会

『『障がい』を考える全国交流会』を開催します。

◎日時／2008年6月17日(火)～18日(水)

◎場所／戸山サンライズ(東京都新宿区)

交流会のための資金が必要です。皆さんの温かい献金をお待ちしています。

◎ホームページアドレス

<http://sky.geocities.jp/uccjshogai/>

◎振替番号／00140-9-145275

◎加入者名／日本基督教団

*振替用紙の通信欄に「障がい」と明記して下さい



香美教会(写真)、南国教会を会場に

教区担当者会・セミナーを終え

育会
教委員

第35総会期第五回教育委員会が三月四日(火)、五日(水)の両日、高知黒潮ホテルを会場にして開催された。岸憲秀委員長から「ユースミッション2008」については、主題が「主にあって共に歩む」に決定したことが報告された。

プログラムが確認され、実行委員会に新たにネイサン・ブラウネル宣教師が加わることが報告された。

「教会学校応援セット」には四教会・伝道所から応募があり、その応募は担当者、書記、委員長に一任された。どのようにアピールするか今後の課題である。

協議では三月三日(月)、四日(火)に南国教会と香美教会を会場に行われた「教会教育セミナー」と「教区担当者会」の反省を行った。「教会教育セミナー」は今回が初めての開催であったが、参加者六名中、高知分区分から十一教会三七名の参加者が与えられ

たことは感謝であった。ほとんとは教会学校教師であったが、講演に「励まされたいとの声を多数いただいた。一方、」教区担当者会

たことは感謝であった。ほとんとは教会学校教師であったが、講演に「励まされたいとの声を多数いただいた。一方、」教区担当者会



神代真砂実

正確な議論を求める

「教団新報」四六四四号に掲載された後宮敬爾氏の「力による一致では悲しすぎる」という文章について、特に『リマ文書』をめぐる部分が不正確なので一言したい。文章の後半部分に含まれる教憲・教規やドイツの教会(EKD)の性格の不正確な理解にも実は大いに問題を感じているのであるが、ここでは『リマ文書』の件に絞って書く。

さて、問題なのは『リマ文書』から未受洗者の陪餐を肯定する議論を氏が引き出しているという点である。この問題点そのものをまづ明らかにしておこう。氏の文章の四段落目を以下にそのまま引用してみる。

「そしてその作業の中で『陪餐資格』が課題となり、具体的には『知的ハンディ

を持つ人の陪餐』『幼児洗礼者の陪餐』『子どもの陪餐』『未受洗者の陪餐』などがあげられたのだ。そしてその応答として世界レベルで様々な教会で様々なあり方の『開かれた聖餐』への試行がなされているのである。未受洗者の陪餐を含めた『開かれた聖餐』への試行は『その応答として』つまり、この段落の冒頭に出てくる『その作業』への応答としてなされていると氏は述べている。

それでは『その作業』とは何か。『その作業』というのは直前の「こうした過程を経て、教会は聖餐の重要性を再確認してきた(三段落目)」という、再確認の作業という意味としか理解できない。さらに「こうした過程」というのは、当然の

ことながら、その直前の文章『リマ文書で世界の教会が新たに確認したことは、聖餐が持つ多様な意味とその豊かさであった』を指している。

このようなわけであるから、氏は『リマ文書』によって聖餐の意義を確認した世界の諸教会が未受洗者の陪餐を含んだ『開かれた聖餐』を試行していると述べていることになる。氏が『リマ文書』から未受洗者の陪餐を導き出している、言い換えれば、『リマ文書』から未受洗者の陪餐が必然的に導き出せるとしていることは明らかである。

しかし、ここには無理があり、誤解があると言わなければならない。というのも、『リマ文書』は未受洗者の陪餐を認めていないから

である。一例を挙げてみよう。『リマ文書』は『リマ文書』は「バプテスマは、十字架につけられそして甦られた主なるキリストと一体になるということである。それはまた、神とその民のあいだにむすばれた新しい契約の関係の中に加えることである」と述べている(『バプテスマ』第一項、翻訳の二七頁)。

他方、聖餐については、「聖餐は、キリストが、御自身の死と復活の想起(アナムネシス)として、また小羊の婚宴(黙示録19・9)の先取りとして、弟子たちにあたえられた新しい超越の食事、新しい契約の食事にほかならない」と述べられている(『聖餐』第一項、翻訳の四八頁)。

これらの文言から明らか

なように、『リマ文書』は「新しい契約」の概念によって洗礼と聖餐とを結合している。従って、聖餐において新しい契約の食事と与えることの前提に、洗礼を通して、この契約関係への加入があるのは明白である。

この前提があるからこそ、バプテスマを受けてキリストのからだの肢とされているひとりと氏は、キリストの約束にしたがって、この聖餐において罪の赦しの保障を受け(マタイ26・28)、永遠の生命を約束する(ヨハネ6・51-58)を受けるのである。「(『聖餐』第二項、翻訳の四九頁)」という言葉も出てくるのである。ここに未受洗者の陪餐が入り込む余地はない。

疑問に思えてならないの

は、氏が、この最も基本的な点(『リマ文書』からの先の二つの引用が洗礼と聖餐について、それぞれ最初の項で語られていることに注意して頂きたい)をどうして無視しているのかということである。何か理由があるいは、氏のそのような読み方を裏づける典拠が存在するのであるか。

従って、『リマ文書』に対する応答の中で、陪餐資格の問題に言及するものがあるというのは事実であるにしても、そこで直ちに未受洗者の陪餐の問題を同列の問題として挙げるということにもまた無理があると言わなければならない。氏は、この関連で「開かれた聖餐」という言葉を使っているが、そのことをきちんと論証する責任が生じてくるのである。

以上の理由から、「教団新報」四六四四号における後宮氏の発言には、まず、その前提とされている『リマ文書』についての大きな誤解が存在し、それゆえに、その議論全体が成り立たないことは明らかである。さらに、「開かれた聖餐」に未受洗者の陪餐を含めてよいと考えられている理由も明らかにされていない。

聖餐という教会の信仰や一致の中心問題(だからこそ、『リマ文書』は大きな労苦を経てまとめられたのである)に関して、論拠や議論に不正確さを持ち込む必要がある。また、「開かれた聖餐」に未受洗者も含まれるべきだと考えるのであれば、そのことをきちんと論証する責任が生じてくるのである。

(東京神学大学教授

二月十八日、逝去。九七歳。静岡県に生まれる。一九三七年救世軍士官学校卒業後、何れも救世軍下関、大牟田、佐世保、小樽、水戸、上福島、大牟田有明各教会を牧会し、七三年隠退した。遺族は息の信満さん。



谷口 章氏(和歌山新生教

消息

なるがこれでよいのか。六月の委員会において最終的な答申をまとめる予定である。(長谷川洋介報)



奥羽キリスト教センターで派遣式

相良昌彦宣教師派遣式が三月十八日木下宣世世界宣教委員会委員長の司式、説教により、奥羽キリスト教宣教師の後任として、四月

一日付で赴任する。相良氏は、ニューヨークの日米合同教会アシスタントをしながら、ニューヨーク州ドルー神学校を卒業、駒場工

教区との連帯の中で全力を

相良宣教師派遣式

牧会を経験した。ニューヨーク日本語教会は教員が約二〇名。バブル経済の崩壊、九・一一同時多発テロなどの影響により地域の日本人は激減した。しかし、ニューヨーク地域での日本人伝道的重要性と必要性を認めて、宣教師招聘を決議した。

相良氏はニューヨーク日本語

教会の牧会と日本人特別牧会(Special Ministry of the Japanese)以下SMJ)のディレクターを兼任する予定である。SMJはニューヨーク地域の日本人への牧会、伝道のために設立された。これまで多くの日本人を教会へと導き、帰国後も日本の教会員になった方が多数いる。しかしながら、米国の支援教会のほとんどが財政難に直面し、日本人が激減した現在、SMJの運営や活動は大きな転換点を迎えている。

木下委員長は、国内でも海外でも牧会、同等の主の僕としての奉仕である。それを覚え、教区で支える姿勢を示し、奥羽キリスト教センターで派遣式がなされること

四月三日(四日)に第35総会期第五回宣教研究所委員会が開催された。この中で二つの重要な議題を中心に報告を行う。

一、宣教基本方策及び宣教基礎理論に関して以下の二つの理由により新しいものを策定する必要性を確認した。①一九六一年の宣教基本方策及び一九六三年の

宣教師派遣式は既に五十年近くを経ており、新しいものを必要とする時期である。②教団の教勢低下が著しい中において、宣教の立て直しに資する内容が求められる。委員会としては新しい宣教基礎理論を作成することに精力的に取り組む所存である。

二、一九九〇年に宣教研

究所委員会が出した「陪餐問題に関する資料ガイド」の問題点について検討を行った。この「ガイド」は、リマ文書に対する応答文書であるChurches respond to BEM (Official responses to the Baptism, Eucharist and Ministry text, I-VI)から多くの引用が

なされている。そもそもリマ文書はWCC信仰職制委員会が諸教派の一致の支えとなる神学的基礎付けのために作成したものであり、未受洗者の陪餐は全く前提とされていない。

この「ガイド」が教団内において議論の根拠として使われていること、しかもその使い方が聖餐についての誤った印象を与えかねないことを重く受け止め、当委員会としてこの「ガイド」に対する正しい認識を普及する必要がある。③宣教研究所委員会の構成が実質的には四名と

設委員会の答申について教団議長より検討依頼があり、当委員会としては以下の二点の返答を決めた。①宣教師派遣式の廃止の方向については異論はない。②宣教師派遣の実務担当部署の確立。③宣教研究所委員会の構成が実質的には四名と

「ユースミッション2008・日独教会青年合同リトリート」に青年たちを送り出して下さい。

◎日時／2008年8月13日(水)～15日(金)
◎場所／神奈川県立芦ノ湖キャンプ村
◎テーマ／「神の恵みの善い管理者として」(ペトロの手紙一 4章10節)
◎目的／1、共に神を礼拝・賛美する
2、聖書・黙想を通じて神と出会う
3、共同生活を通じて他者と出会う
◎主催／全国教会婦人会連合青年交流実行委員会
◎人数／20名(10代～20代の青年男女)
◎締め切り／5月末日
◎費用／申込金3,000円(返却不可)、参加費9,000円(宿泊費、食事代を含む)
※詳細は全国教会婦人会連合事務局へお願いします。

牧師のパートナー

『問題点を見るのではなく、チャンスを見続ける』
「わかんない」「こんなのやりたくない」「うざい」と言ってる気はなく、ただをこねて、直面する問題から逃げようとする子どもたちを相手に、「なぜ?」「どうしてやらないの?」と手をやいて、悩んでいる時に、与えられた学習塾の勉強会の講師が言われた言葉です。

牧師のパートナーとなつて十八年。岡山に導かれて八年。学習塾の先生として七年が経ちました。教会での生活は、決して平坦ではありません。問題点を上げたらキリがないでしょう。学習塾の先生という与えられた仕事を通して「はっ!」と改めて気がつかれました。すべては、私自身の問題だということ。たくさん神様からチャンスを与えていただいているのに、いつも主の十字架と復活の希望を与えられているのに。なかなかそこを見ようとしな。問題点ばかり、相手を交えよう、周りを交えようということばかり目がい

問題点を見るのではなく、チャンスを見続ける

宮川 章子
(岡山信愛教会員)



宮川経宣牧師と共に

と思つたこともありました。結局は自分で自分を「こうすべき。こうやるべき」と縛り付けていたのです。そして、「あれが足りない。これも足りない」と引き算ばかりしていたのです。挙句の果てに夫のせいになり、本当に未熟でした。

聖書の御言葉は、「すべて主に委ねなさい」とくり返し、くり返し、わたしたちに語り続けています。主にすべて委ねているつもりで、まったく何も委ねていない私の姿が改めてくつきりで見えてきたの

つてしまっている自分の姿が。「教えようとしていませんか。やらせようとしていませんか。無意識にしている」ことを意識することが大切です。「自分自身が楽しみたい子どもも学習が楽しくないはずです」「弊は自分です。枝葉は自然についてきます」と次々と講師が言われる言葉。

牧師のパートナーになりたての頃は、「だんだんずうずうしくなってきたんですが」「牧師の妻はこうあるべきだ。こうすべきだ」との圧力に押しつぶされそうになったことも何度もありました。また、「辞めたい。この場から逃げたい」

主イエスは、いろいろな方法や物事を通して教え続けてくださっています。時には、厳しく、時には、やさしく語りかけてくださいます。『あなたは、牧師のパートナーってとても楽しいと喜んでないですよ!』いつも喜んでいないのですよ!ではなく、あれもなくて、これもなくて、心を向けるものがずれていきますよ!ますます思い煩いをわたしにすべて委ね、わたしに心を向けなさい」と。

夫が、「ここは、良い教会だ。楽しい教会だ」と口癖のようにつぶやくのも、きつと無意識に思っていることを意識しようとして奮い立たせているのではないかなと思います。

どんなことも楽しんで喜んで、問題点と考えることも自分に与えられたチャンスと受け止めて、主に委ねて、歩み続けていきたいと願っています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」(一テサロニケ5・16)

広島キリスト教社会館 創立 50 周年記念会



広島キリスト教社会館の創立五十周年記念会が、二月十七日午後催された。当館は、被爆後の広島において、被差別地域の子もたちとその家庭を支えるために、一九五八年に米国メソジスト教会の協力でメアリー・ジョーンズ宣教師により開設された。創立の記念と共に、教団や教区の「部落差別問題」への取り組みや、広く人権と平和の課題を担ってきた運動体としての歴史も、覚えたい。ジョーンズ宣教師は、教団が部落差別問題に取り組む礎を築き、解放センター開設の道を拓いた方である。

記念礼拝で説教者の東岡山治さんは、霊的示唆を受けて労したジョーンズ宣教師の活動を記念する意義を語られ、ジョーンズ宣教師作詞の讃美歌も歌った。

社会館の属す西中国キリスト教社会事業理事長西尾正嗣さんは、地域に仕える業が継続されてきた事への感謝を述べられた。地域代表の神崎常夫さんは、設立当初の苦労や生活支援の様子について語られた。柴田もゆる教区議長は、館を教区・教会が宣教的視点で支援する決意を述べた。

現在の学童保育、保育所、高齢者介護の活動を、職員がプロジェクトで紹介した。「〇歳から百歳まで」を合言葉に、意欲的なはたらきがなされている。

今回は、昨年度の大改修で、広く快適に使えるようになった館内の見学もかねた。この会には約八〇名が集い、教団部落解放センター主事小林明さんをはじめ、開設以来の職員や様々な形で支援してきた教区近隣諸教会の方々から、様々な祝辞をいただいた。職員の手作りクッキーや、在日大韓基督教教会広島教会の協力による韓国菓子などで、テーブルが彩られた。今後利用者のそれぞれの人生にしっかりと向き合い、神の前に一人の人間としての尊厳が守られるよう、地域に根ざした地道な活動を続けていきたい。全教会に送られている『社会館たより』等を通してこの活動を覚え、祈り、ご支援いただければ幸いである。

(西嶋佳弘報／館長臨時)

ひととき

とうはら 東原 邦男さん

時に叶った主の導き



1925 年生まれ。八二歳。西新井教会員

あつたことを知らされ、生きる目的を失った。それから一年あまり後、焼け残った日本橋丸善で、売り物がほとんどない中に、カラー表紙の五〇冊ほどの本が積まれていた。「新約聖書五円」。見るのも取るのも初めての聖書を買求め、マタイ伝二六章に出会う。「汝の剣をもとに収めよ。すべて剣を取る者は剣にて滅ぶなり」。二千年前にこのように書かれた聖書はただの本ではないということを感じた。

程なく、西新井教会の諸集會に出席するようになり、洗礼へと導かれた。父より受け継ぐ「手術用針」の職人として、職人社会と信仰の両立に苦闘した。

前後に「(主の)晩餐を守ることとは洗礼時の誓いを想起し、更新する機会である」、あるいは「聖餐の執行は信者の集団の生における力強く、根本的な要素である」などありま

牧師を目指してみようという思いを強く持った。しかし、学歴の壁を強く感じ断念した。ならば、牧師を支える役員を目指そうと決意し、教会会計として二〇年務めた。また、若い日の教育の大切さを伝えたくて、教会学校教師を志した。しかし、ここでも学びが足りないと感じ、日本聖書神学校の講座に学び、教会学校長も務めた。

受洗してより五〇余年、時に叶った主の導きのうちに、十字架を過去のことにせず、復活の信仰を持って、導き手である聖書と共に、迷うことなく与えられた人生を歩む者でありたいと願っている。

「教団新報」四六四号において後のため(ガイド作成時の研究員や委宮敬爾氏は、当研究所の発行した「陪餐問題に関する資料ガイド」(以下「ガイド」)に未受洗者陪餐を肯定する文脈の中で触れています。当研究所はガイドのこの種の扱いが広まることに對して深い憂慮の念を持つものであります。

ガイドは、そのしがきにおいて明らかなように、本来、信仰職制委員会からの依頼に依って同委員会での検討資料としてまとめられたものであり、諸教区・諸教会への配布を意図したものではありませんでした。これがガイドの性格であります。引用もきわめて短いものです。その

の後に「(主の)晩餐を守ることとは洗礼時の誓いを想起し、更新する機会である」、あるいは「聖餐の執行は信者の集団の生における力強く、根本的な要素である」などありま

このように、ガイド自体を未受洗者の陪餐をめぐる議論のための典拠として用いることは不適切かつ危険であります。今後、諸教区・諸教会では必ず資料の原典を参照し、各引用の意味を正しく捉えてくださいますようお願いいたします。

二〇〇八年四月四日
宣教研究所委員会委員長 宮本義弘

声明 引用は正確に、適切に!